

20140708 U30 コミュニケーションスキル研究会議事録

「地域コミュニティをいかにつくるか？」

～すみだ青空市ヤッチャバにおける20代とお年寄りのコミュニケーション～

日 時：2014年7月8日（火）19:30-22:00

場 所：東京／池袋「バー クオーレ」

発表者：松浦伸也さん（すみだ青空市ヤッチャバ代表）

インタビュアー：福田一輝（U30 コミュニケーションスキル研究会会長、大学生）

参加者：参加者 14人（発表者除く）

（大学生、会社員、会社経営、大学教員、NPO法人理事長、
社会保険労務士、行政書士・司法書士など）

1. プロローグ

東京農業大学にいました。が、大学生のころ、田んぼに触れることはありませんでした。実地が必要と考えていました。そのころ、入江先生に声をかけられて、福島県の鮫川村（山間部）へ連れていかれました。

そこで、農家のおじいさん、おばあさんの知識・経験に魅かれました。農業だけでなく、大工もできます。中山間地域が日本のある部分を支えていることを知りました。

たとえば、むかつくことがあるとします。なんとかしていこうと思うわけですが。そんなときは、「同じ次元でお話しをしてはダメ。その上の次元に行くことが大切」という言葉を思い出します。アインシュタインの言葉です。

さて、農家のおじいさん、おばあさんに聞くと、鮫川村には何もないという答えが返ってきます。しかし、私からすると、残すべき知恵や技術があります。では、どうするか？ 東京から毎月、60～70人を鮫川村に行ってもらおうようにしました。

その後、福井県池田町で学びました。自分たちで作った堆肥で有機農業を行っています。

2. きっかけ

大学の先生になることも考えていたころもありました。そのときに、「すみだ青空市ヤッチャバ」を始めました。きっかけは墨田区の食育で活動するおばちゃんたちです。栄養などの食指導ではなく、豊かな食環境を作ることを目指しています。この食育の全国組織を墨田区のおばちゃんたちが行っています。そこでのつながりからです。

墨田区も八百屋が減っています。本所界限は100軒以上ありましたが、いまは1軒だけです。

きっかけのもう一つは、2011年3月の東日本大震災です。墨田区には木造密集地域があり、その地域は高齢者ばかりです。団地も高齢率が60%を超えるところがあります。大震災のとき、物流がストップして、お年寄りが飢餓状態になっていました。一つしかスーパーがないという地域で物流が止まってしまったためです。お年寄りは遠くのお店に行けません。課題が見えたわけです。そこで、墨田区のそれぞれ地域と産地をつなげられないかと考えました。

被災地でも食べ物が豊富な避難所とそうでない避難所がありました。前者は近くに畑がありました。都会は食べ物が不足しました。とすると、都会であればこそ、産地とつながっている必要があります。

3. 運営組織の立ち上げ方

はじめはボランティアでしたし、赤字でした。だんだんと「すみだ青空市ヤッチャバ」の開催頻度を上げていきました。が、区内全域で開催することのたいへんさにそのときは気付きませんでした。そのときには大学生スタッフがいました。月1回ペースで開催していたら、死屍累々となりました。ボランティアでやるレベルを超えていたことに気付きました。開催を続けるごとにやりたいことが増えていった結果でもあります。反省しました。自分の問題意識を周りに共有するには時間がかかることに気付きました。そこで、「すみだ青空市ヤッチャバ」を曳舟と両国に絞ることにしました。できるところから順々に行くということです。

4. やってて良かったこと

本年2月、雪害がありました。山梨県で被害が大きかったです（群馬県も）。ビニールハウスの9割が倒壊するなど、農業への被害も起こりました。ビニールハウスは1棟1000万円ぐらいします。撤去と再建に費用がかかります。しかし、資材高騰でビニールハウスの再建もできません。墨田区のおばちゃんたちがなんとかしたいと考えました。なにかできないかとお話しができないかとやってきてくれました。産地の被害を我がことのように感じてくれたわけです。とはいえ、お金もできることも限られています。そこで、クーポンを作りました。1000円分を100口です。クーポンを買っていただければ、お金をすぐに送ります。そのお金で苗を買うことができます。そして、その生産物をクーポンで交換することができます。

2011年3月の東日本大震災当時、墨田区役所はまったく動けませんでした。区役所の職員は区外の人が多いです。また、阪神淡路大震災の際に、倒壊家屋から下敷きになった人を助けたのは近所の人です。若者が何かできないかを考えてきたことがクーポンにつながりました。

5. 若者とおじさんたちとのコミュニケーション

「すみだ青空市ヤッチャバ」で変なことにはなりません。政治的思想の違いについてお話しするとケンカになります。しかし、日本をいかに良くするかというテーマ、第三の点だと、ケンカは起こりにくいです。

6. 将来の設計図

四国には虹が出ると立つ「市」があります。長く続いている市は主催者がいけません。主体は産地と消費者です。産地と消費者との共販関係を作りたいです。市の事務局がいると産地と消費者の関係は濃くなりづらからです。ファーマーズ・マーケットが数多く開催されています。立地は良いのですが、出店料も高くなっています。「すみだ青空市ヤッチャバ」は出店料を売上げの10%にしています。テント代などに充てています。雨が降ると、売上げはがっくり落ちます。しかし、「すみだ青空市ヤッチャバ」であればそれでもなんとか営業できます。低カロリーであるからこそ、長く続くと考えています。

「すみだ青空市ヤッチャバ」が墨田の風景になって欲しいです。1000年あればできるかもです。

7. 20代へのメッセージ

幕末物が好きです。しかし、私は幕末だと何もできなかったでしょう。幕末はみんな、テンションが高いのです。いまはみんながサボっているのでやってみればけっこううまくいきます。だからこそ、「がんがんやろうぜ」です。そのためには、仲間が大切です。仲間を探すことです。仲間がいれば自然とできていくのではないかと考えています。

以上